

令和7年度 兵庫県 英語教育改善プラン

目標

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の促進を目指し、小中高連携を推進し、学習指導要領に基づく指導方法の工夫、教員の授業力向上に取り組む。

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①授業の好事例の共通理解が進んだ。
- ②言語活動の充実や「CAN-DOリスト」の活用方法を示す必要性についての周知が進んだ。

未だ改善が必要な点

- ①CEFR B2以上を取得している小学校教員の割合が、低い状況である。
(R4:5.0%、R5:5.8%)

2. 要因分析

①専科教員の指導力向上研修で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて実践研修を実施し、授業改善について協議することを通して、児童の学力向上及び指導体制の充実を図ったため。

②英語教育実施状況調査の結果分析により、英語力向上につながる言語活動を充実させるために、教員が実践している授業を振り返ったり、言語活動例を示したりすること、また、指導と評価の一体化を図る授業を実現するために作成した「CAN-DOリスト」の活用方法を示す必要があることを県内に周知したため。

③外部検定制度の活用等について周知を行っているが、小学校教員の英語力向上の必要性が十分に理解されておらず、活用されていない現状があると考えられるため。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①

(1) 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善研究事業

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実や、教科等横断的な学びや総合的な学習の充実等、児童生徒が学習したことを活用して、主体的に学びを深めるための指導方法の工夫について、学校単位による実践的な授業研究を実施するとともに、市町単位による研究成果の周知を図る。

(2) ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた調査研究事業

デジタル教科書の児童生徒への学習効果、有効な指導方法、授業でのICTの活用状況等の把握及び好事例の収集・周知を図ること、英語教育におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を全県的に促進し、教育の質の向上を図る。

(3) 指導資料の作成・周知や研修会の実施

指導資料「英語教育の充実に向けて」や「小学校外国語教育指導用映像資料」の周知や研修会の実施など、指導力向上に向けた施策等を実施する。

令和7年度 兵庫県 英語教育改善プラン

目標

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の促進を目指し、小中高連携を推進し、学習指導要領に基づく指導方法の工夫、教員の授業力向上に取り組む。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合（R6実績：38.7%⇒R7目標：55.0%）

□ 言語活動 □ 指導と評価の一体化 □ 教師の英語力・指導力 □ 校種間連携 □ ALTの参画 □ ICTの活用 □ AIの活用 □ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR B2相当以上を取得している教員の割合が増加している。
(R5:43.5%⇒R6:44.2%)

②生徒がデジタル教科書を活用した授業の割合が増加している。
(R5:91.3%⇒R6:96.8%)

未だ改善が必要な点

①英語能力に関する外部試験の受験経験がある生徒の割合が減少している。
(R5:36.8%⇒R6:35.1%)

②CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が減少している。
(R5:42.3%⇒R6:38.7%)

2. 要因分析

①外部検定制度の活用や教員採用試験における加点措置等について周知を行った結果、中学校教員の英語力向上の必要性が理解されてきたと考えられる。

②英語のデジタル教科書の活用により教員、生徒が慣れてきたこと、また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が進んでいると考えられる。

①②令和5年度調査では、授業において、教員、児童生徒の英語による発話の割合が低かったことから、依然として従来の教科書のリーディング中心の授業を行っている学校があることが考えられる。

②教員のCEFR B2以上の取得状況から、教員の英語力だけではなく、指導と評価の一体化等、授業内容の改善自体が必要であることが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①②教員・生徒の英語力向上を図るために、外部検定割引制度の活用等について引き続き周知するとともに、県作成教材「Englishつまり予防ワークシート」及び「はば単2,500」を活用して、生徒のつまり予防し、生徒の英語力向上を図る。

②①

(1) 県作成指導事例集等の周知、活用

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教科特有の「見方・考え方」を働かせる授業改善の指導事例集「学びのデジタルガイド」と、デジタルガイドで取り上げた事例の学びと日常生活を結びつける児童生徒向けの「デジタルガイドプラス」を県内の中学校に周知し、生徒の英語力向上を目指す。また、県が生徒の英語力向上に向けた取組推進のポイントをまとめた「言語活動が英語力UP！につながる」「作ってみよう！使ってみよう！『CAN-DO リスト』」を再度周知することで、教員の指導力向上と授業改善を図る。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善研究事業

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実や、教科等横断的な学びや総合的な学習の充実等、児童生徒が学習したことを活用して、主体的に学びを深めるための指導方法の工夫について、学校単位による実践的な授業研究を実施するとともに、市町単位による研究成果の周知を図る。

令和 7 年度 兵庫県 英語教育改善プラン

HYOGOグローバルリーダー育成プロジェクトや指導力向上研修等において授業改善に向けた言語活動及び学習評価の充実を推進し、好事例を各校と共有することで、県全体で生徒の英語力の向上に取り組む。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 56.2%、B1以上 21.7% ⇒ R7 : A2以上 56.0%、B1以上 28.0%)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFR C1レベル相当以上を取得している教員数の割合が増加。
(R5:22.3%⇒R6:28.8%)
- ②CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合が増加。
(R5:21.0%⇒R6:21.7%)

- ①授業中、50%以上の時間、英語による言語活動を行っている学校の割合が減少。
(R5:77.4%⇒R6:73.0%)
※普通科英コミュ I 及び英語・国際系を除く専門学科及び総合学科の英コミュ I を抽出し、県独自に算出した値。
- ②CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合が減少。
(R5:57.2%⇒R6:56.2%)

2. 要因分析

- ①「指導力向上研修」で外国語指導助手と合同研修を実施し、また各種研修会で海外派遣教員による実践等を共有したことにより、英語科教員の自己研鑽に向けた機運が高まり、資格取得につながったと考えられる。
- ② 探究的な学びにおける英語活用の充実や海外留学者数の増加により、生徒の英語力の向上につながったと考えられる。

- ①「指導力向上研修」で言語活動の充実に向けてALTやICTの効果的活用について研修を行ったが、成果が見えづらく各校での継続的な取組につながらなかったと考えられる。
- ②パフォーマンステストの効果的な活用や各種検定等の受験結果の分析など、生徒の英語力を幅広く評価することができるよう、一層の工夫が必要であったと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②「HYOGOグローバルリーダー育成プロジェクト英語力向上のための研究と実践事業」を通じて、英語学習支援アプリとALTによる指導を有機的に融合させた研究と実践を行うとともに、指導と評価の一体化の観点から評価のあり方についても検討することで、CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合を増加させる。また、生徒の英語力と生徒の英語による言語活動の充実の相関関係を意識し、アプリを含むICTとALTの有効活用という観点から授業研究に取り組む。さらに研究指定校での取組を、好事例の実践発表等により、県下に広く共有されるよう事業運営を行う。

②グローバルに活躍することが期待される人材の育成に向けた取組の1つとして、「HYOGOグローバルリーダー育成プロジェクト（海外サポート）補助事業」の活用をより一層促し、生徒の海外での活動意欲を高めるとともに、授業等の取組を通じてその素地となる英語力を習得させ、CEFR B1レベル相当以上の英語力の習得と国際感覚の涵養を目指す。また、英語を活用した探究的な学びの一層の充実を図り、探究活動研究会等においてその成果を発表する。

(参考URL : HYOGOグローバルリーダー育成プロジェクト（海外サポート）補助事業
<https://www2.hyogo-c.ed.jp/hpe/koko/career/bosyuannai/>)

①②「学力向上研究事業」や各種研修会において、パフォーマンステストの質、実施頻度ともに改善されるよう継続的な研究を行う。またパフォーマンステストの実施が生徒の英語力の向上と教員の自己研鑽及び授業改善につながるようPDCAサイクルを機能させ、指導と評価の一体化を目指す。

兵庫県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	52.0	57.2	54.0	56.2	56.0		58.0		60.0		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	26.0	21.0	27.0	21.7	28.0		29.0		30.0		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100.0	65.7	100.0	63.2	100.0		100.0		100.0		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	38.0	38.8	41.0	35.9	44.0		47.0		50.0		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0	95.8	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表(%)	100.0	66.1	100.0		100.0		100.0		100.0	
		達成状況の把握(%)	65.0	55.2	65.0		66.0		67.0		68.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	90.0	88.4	90.0	93.2	91.0		92.0		93.0		
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100.0	47.3	100.0	44.6	100.0		100.0		100.0		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50.0	42.3	52.0	38.7	55.0		58.0		60.0		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	90.0	61.4	90.0		92.0		92.0		95.0		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	74.0	71.8	76.0		77.0		78.0		80.0		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	90.0	73.2	90.0		90.0		92.0		95.0	
		公表(%)	50.0	37.4	50.0		50.0		52.0		55.0	
		達成状況の把握(%)	70.0	55.9	70.0		70.0		72.0		75.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	45.0	43.5	50.0	44.2	52.0		54.0		55.0		
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	90.0	55.0	90.0		90.0		90.0		90.0		

			2023		2024		2025		2026		2027	
校種		指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	70.0	62.8	70.0		72.0		74.0		75.0	
		公表(%)	35.0	29.5	35.0		37.0		39.0		40.0	
		達成状況の把握(%)	60.0	52.6	60.0		62.0		64.0		65.0	